

Title	『コロナ』を中心とするポール・ヴァレリー後期作品草稿研究
Sub Title	Research on manuscripts of Paul Valéry's latter works around Coronilla
Author	田上, 竜也(Tagami, Tatsuya) 牛場, 暁夫(Ushiba, Akio) 大出, 敦(Ode, Atsushi) 橋本, 順一(Hashimoto, Junichi) 鈴木, 順二(Suzuki, Junji)
Publisher	
Publication year	2013
Jtitle	科学研究費補助金研究成果報告書 (2012.)
JaLC DOI	
Abstract	慶應義塾大学図書館の協力を得て作成したポール・ヴァレリーの書簡詩『コロナ』の高精細デジタル画像記録データを基に、テキストの校訂作業を行い、翻訳作業を進めた。翻訳の一部は雑誌『三田文学』において発表した。あわせて『コロナ』と同時期の書簡や作品についてフランス国立図書館で調査を行い、今まで紹介されることのなかったコレージュ・ド・フランスにおける「詩学講義」の全体像を解明し、その研究成果を翻訳とともに出版した。
Notes	研究種目：基盤研究(B) 研究期間：2009～2012 課題番号：21320064 研究分野：人文学 科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学(英文学を除く)
Genre	Research Paper
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=KAKEN_21320064seika

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成 25 年 5 月 7 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2009～2012

課題番号：21320064

研究課題名（和文）『コロナラ』を中心とするポール・ヴァレリー後期作品草稿研究

研究課題名（英文）Research on manuscripts of Paul Valéry's latter works
around Coronilla

研究代表者

田上 竜也（TAGAMI TATSUYA）

慶應義塾大学・商学部・教授

研究者番号：90327669

研究成果の概要（和文）：慶應義塾大学図書館の協力を得て作成したポール・ヴァレリーの書簡詩『コロナラ』の高精細デジタル画像記録データを基に、テキストの校訂作業を行い、翻訳作業を進めた。翻訳の一部は雑誌『三田文学』において発表した。あわせて『コロナラ』と同時期の書簡や作品についてフランス国立図書館で調査を行い、今まで紹介されることのなかったコレージュ・ド・フランスにおける「詩学講義」の全体像を解明し、その研究成果を翻訳とともに出版した。

研究成果の概要（英文）：Referring to the ultra-high-density digital image recorded data, made by cooperation with the Keio University library, we accomplished the revision of Paul Valéry's letter poetry 'Coronilla', and proceeded the translation work of this text. A part of the translation was opened to the public in the magazine 'Mita Bungaku'. We investigated the letters and the works of a simultaneous period in the Bibliothèque nationale de France, and clarified the whole image of Valéry's "Poetics lecture" in Collège de France, that has not been introduced so much up to now. The study results were published with the translation.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合計
2009年度	3,800,000	1,140,000	4,940,000
2010年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2011年度	2,200,000	660,000	2,860,000
2012年度	1,900,000	570,000	2,470,000
総計	10,100,000	3,030,000	13,130,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学・ヨーロッパ文学（英文学を除く）

キーワード：仏文学

1. 研究開始当初の背景

(1) 20世紀フランスを代表する詩人・思想家ポール・ヴァレリー Paul Valéry (1871-1945) の後期作品群は、『テスト氏との一夜』、『レオナルド・ダ・ヴィンチの方法序説』、『若きパルク』などの前・中期作品に比べれば未開拓な研究分野である。その理由としては、第

3共和政を代表する明晰な知性という世上的名声とはうらはらに、実人生とりわけエロス体験と結びついた要素が晩年の作品の基底には存在し、プライバシーの問題から立ち入ることが困難な部分が少なからずあったという点が挙げられる。現実にプライバシー問題によって今まで日の目を見なかった草

稿群のひとつが、慶應義塾大学の所蔵する後期書簡詩『コロニラ』*Coronilla*であり、作家晩年の愛人ジャン・ヴォワリエ Jean Voilier(本名 Jeanne Loviton)から購入し、三田メディアセンター貴重書室にて厳重に保管されていたものの、ヴァレリー遺族、とりわけ長女 Agathe Rouart-Valéry の反対により使用公開が禁じられていた。この『コロニラ』133篇は、エロスの惑溺の折々に生まれた恋愛詩であり、愛憎の機微を伝えつつ、人生と密着した詩想のありようを生き生きと示す、文学的価値の高いものである。

(2) 近年遺族の代替わりによってこのような制限が緩和されたが、いわばその機に乗ずる形で、フランスのファロワ社 Editions de Bernard de Fallois からコピーを基にした不完全な『コロニラ』が出版された。これは編者みずから一般読者向けと銘打つように、正確さも保証されず注も不備なものである。しかしながら活字となった『コロニラ』テキストが他にない以上、研究者たちはこの不完全な版に依るしかない。このようなわけで慶應義塾としても、草稿に即した厳密な学術校訂版を作成する必要性を強く感じるようになった。幸いヴァレリーの孫娘であり、現在遺族の代表者である Martine Boivin-Champeaux 夫人から内諾を得ることができ、慶應義塾大学三田メディアセンターも賛同して研究開始の態勢は整った。

2. 研究の目的

(1) 慶應義塾大学が『コロニラ』他の草稿を購入して以来、立仙順朗、田中淳一(現慶應義塾大学名誉教授、今回は研究協力者として参加)を中心としたスタッフが訳読会などの形で研究を積み重ねてきた。上述のごとくヴァレリー遺族から『コロニラ』草稿の利用に許可が下りたことが本研究の直接のきっかけであるが、このような過去の成果を踏まえつつ、『コロニラ』周辺資料をも広範に調査することでより深化させることを目的とする。

(2) 具体的にはまず『コロニラ』の物理的側面をも記述した学術校訂版を作成し、それに基づく翻訳を通じて、作品の文意を緻密に読解し、かつ関連草稿との照合によりその背景をも解明する。

(3) さらに『コロニラ』と同時代の「詩学講義」「我がファウスト」などの作品へと研究の関係性の網をはりめぐらせることで、ヴァレリー後期作品群の相対的把握をめざす。

(4) 加えて、プルーストやマラルメ、フロベ

ールなどを専門とする研究分担者、連携研究者の参加により、ヴァレリー専門研究者の狭隘な議論に陥ることなく、広い文学史的視野からエロスと詩学の問題について考究する。

3. 研究の方法

(1) 最初に準備的作業として慶應義塾大学所蔵の『コロニラ』関連草稿を撮影・データベース化する。

(2) 次にそのデジタル資料およびオリジナル草稿を参照しつつ、『コロニラ』の学術校訂版の作成および翻訳作業を進める。

(3) あわせて主にフランス国立図書館所蔵のヴァレリー後期作品草稿、とりわけ「詩学講義」や『我がファウスト』関連草稿を調査し、『コロニラ』との関連性を考究するとともに、後期ヴァレリー作品群の全体像の把握を試みる。

(4) 随時研究会などを開催し、外部の研究者を招聘し知見を深めるとともに、当該研究成果を公表する機会を得る。また、ヴァレリー以外の専門分野の研究者と交流することにより、広い文学史的見地から詩学や文学とエロスの問題について考察していく。

4. 研究成果

(1) 2009年度に、慶應義塾図書館の全面的な協力のもと、慶應義塾大学所蔵のポール・ヴァレリー『コロニラ』草稿133篇の高精細デジタル画像撮影およびデータベース化を完了した。

(2) 上記のデータベースを参照しつつ、オリジナル草稿ともつきあわせながら、主に田上と大出が『コロニラ』草稿の読み取りがたい手書き部分や書簡の消印などを読み取る作業を行い、さらに草稿の紙質や字体など物質的状态に関するメモを取った。このように作成された学術校訂版『コロニラ』は、最終的に2012年にテキストデータの形にまとめられた。

(3) 同時並行的に、『コロニラ』の翻訳作業を田上、大出および研究協力者である立仙順朗、田中淳一両慶應義塾大学名誉教授の4名にて行い、2012年中にごく少数の詩篇を除き完了した。この成果は抄訳の形で一部2010年度発行の雑誌『三田文学』において発表されたが、残りの詩篇についても近年中に公開を予定している。

(4) 当研究のいわば中間報告と社会還元を

目的とし、2009年10月1日～10月6日に丸善・丸の内本店4階ギャラリーにおいて、慶應義塾図書館主催、第22回慶應義塾図書館貴重書展示会「現代フランス文学、受容と展開」を開催し、『コロニラ』草稿やその他のヴァレリー書簡を中心とする展示、図録による紹介・解説、さらに田上、牛場、大出による講演を行った（他に展示会への協力者として慶應義塾大学法学部笠井裕之准教授が参加）。

(5) 後期ヴァレリーを中心に業績の多い、研究協力者の神戸大学文学部教授松田浩則氏を慶應義塾大学三田キャンパスに招聘し、研究代表者、研究分担者、連携研究者による研究会を行った。氏による、ヴァレリーとヴォワリエとの関係にまつわる刺激的な発表の後、活発な意見交換が行われた。（2009年11月29日）

(6) 2010年7月に発行された雑誌『三田文学』夏季号において全75頁にわたるポール・ヴァレリー特集を組み、そのなかで研究の成果を『コロニラ』中21篇の翻訳（立仙、田中）作品解説（田上）、座談会（田上、松田浩則、清水徹）の形で発表し、大きな社会的反響を得た。

(7) 2009～2012に数度にわたって田上、大出がフランスに出張し、パリのフランス国立図書館やセットのヴァレリー博物館所蔵の書簡や、関連作品草稿を調査した。とくに『コロニラ』と同時期の重要なテキストであり、今まで部分的にしか紹介されることのなかったヴァレリー晩年のコレージュ・ド・フランスにおける「詩学講義」については、田上が翻訳に解説を付して、ほぼ全容を解明する成果を筑摩書房刊『ヴァレリー集成 詩学の探究』（2011）において発表した。「感性」のはたらきを中心に、詩の創作メカニズムを多角的に分析した一連の講義は、ヴァレリー詩論の集大成であり、感性論を基礎として組み立てられた彼の「体系」の到達点というべきものである。興味深いことにこの講義草稿のなかでは性愛と詩的感性のメカニズムを比較する興味深い記述が認められ、「講義」と『コロニラ』が少なからず通底していることが了解される。また、直接的にヴォワリエ夫人をモデルとする女性リュストが登場し、エロスを中心主題とするヴァレリー後期の最重要作品『我がファウスト』についても、読解・筆写を中心とする調査を行った。その成果については近年中に田上が論文の形で発表する予定である。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計6件）

大出 敦「存在しない言語を求めて ステファヌ・マラルメの言語観」、『教養論叢』No.134、慶應義塾大学法学研究会、2013、pp.35-62、査読無

大出 敦「自然・カミ・闇 -クローデルと日本のカミ観念-」、教養論叢、慶應義塾大学法学研究会、No.133、2012、pp.21-47、査読無

TAGAMI TATSUYA “Ecriture, imaginaire et métaphore - une nouvelle lecture du Yalou”, *Paul Valéry 13*, Minard, 2011, pp.107-122、査読無

牛場 暁夫「ヴァレリーと書物」、『三田文学』夏季号、慶應義塾大学出版会、2010、pp.169-170、査読無

田上 竜也「コロニラ」解説、『三田文学』夏季号、慶應義塾大学出版会、2010、pp.114-116、査読無

大出 敦「無に至る詩 クローデルと俳諧」、*L'Oiseau noir*、日本クローデル研究会、No.15、2009、pp.35-59、査読無

〔学会発表〕（計6件）

大出 敦「マラルメの挫折、あるいは新たな出発」、マラルメ・シンポジウム 2013 マラルメは現在...、於慶應義塾大学日吉キャンパス、2013年3月17日

牛場暁夫「プルースト、フロベール、オペラ座」、慶應義塾大学文学研究科修士課程（フランス文学専攻）特別発表、於慶應義塾大学三田キャンパス、2011年10月15日

大出 敦「マラルメ、仏教思想からの出発」、マラルメシンポジウム 2010、於東北大学、2010年3月23日

牛場暁夫「草稿研究の新しい流れ」、第22回慶應義塾図書館貴重書展示会「現代フランス文学・受容と展開」講演会、於丸善ギャラリー、2009年10月4日

田上 竜也「エロスの詩人ヴァレリー」、第22回慶應義塾図書館貴重書展示会「現代

フランス文学・受容と展開」講演会、於丸善ギャラリー、2009年10月3日

研究者番号：90146572

大出 敦「受け継がれてきたものの軌跡
フランス文学の百年」、第22回慶應義塾
図書館貴重書展示会「現代フランス文
学・受容と展開」講演会、於丸善ギャラ
リー、2009年10月3日

〔図書〕(計4件)

田上 竜也、森本淳生『ヴァレリー集成 III
詩学の探究』、筑摩書房、2011、3-209、
511-532

牛場 暁夫『「失われた時を求めて」交響
する小説』、慶應義塾大学出版会、2011、
288

牛場 暁夫『フランス文学をひらく』、慶
應義塾大学出版会、2010、283

大出敦、田上竜也、笠井裕之、牛場暁夫
第22回慶應義塾図書館貴重書展示会「現
代フランス文学・受容と展開」図録 2009、
慶應義塾図書館発行、第1セクション、
pp.1-22(大出)、第2セクション pp.23-50
(田上)、第4セクション pp.77-90(牛
場)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

田上 竜也 (TAGAMI TATSUYA)
慶應義塾大学・商学部・教授
研究者番号：90327669

(2) 研究分担者

牛場 暁夫 (USHIBA AKIO)
慶應義塾大学・文学部・教授
研究者番号：70118917

(H21-H23年度の参加)

大出 敦 (ODE ATSUSHI)
慶應義塾大学・法学部・准教授
研究者番号：90365461

(3) 連携研究者

橋本 順一 (HASHIMOTO JUNICHI)
慶應義塾大学・商学部・教授
研究者番号：00118994

鈴木 順二 (SUZUKI JUNJI)
慶應義塾大学・商学部・教授